

平成22年度事業評価シート(ソフト事業)

1 事業名等(Plan 1)

事業名	ごみ資源化意識高揚事業					
所属名	水道環境部 生活環境課 生活環境グループ					
第七次総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	6	環境・衛生
予算科目	4	2	2	塵芥処理	費	42220
					費	
					費	
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等						
事業の実施主体	○ 市		市以外→			
事業の実施方法	○ 直営		指定管理	業務委託	団体等補助	その他→

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	市民	受益者数	96,231 人
	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	ごみの資源化意識の高揚を図り、ごみの資源化を推進する。		
概要	事業の実施手法、手順	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA、保育園保護者会、女性団体、老人会等による古紙、古布、缶、生びん等の集団資源回収実施団体に奨励金を交付する。 ・リサイクル推進員の活動を推進する。 		
	事業始期・終期	始期	年度から	終期
	今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 回収団体等の連携により更なる資源化の意識高揚を図るため、現状を維持する。		

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
財源内訳	総合計画計画額(当初)	30,000	30,000	18,000	18,000	18,000	
	総合計画計画額(計画額)	25,000	25,000	18,000	18,000	18,000	
	事業費	18,000	18,000	18,000			
	(計画・予算・見込・決算額)	14,269	14,016				
	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
	繰入	予算額					
決算・見込							
(手数料等)	予算額	9,639	4,135	1,847			
	決算・見込	8,145	5,674				
一般財源	予算額	8,361	13,865	16,153			
	決算・見込	6,124	8,342				
H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト指標	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%				
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	148	146		
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	443	436		
	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人				
! その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)							

【成果面】

活動・成果指標	活動指標 (投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	資料・出展 算出式					ごみ処理基本計画 家庭系一廃	単位	%
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度			
活動指標	活動指標	集団資源回収量(資源化率)								
	目標値	—	—	11.2	11.3	11.4	11.5	11.5	↑	
	実績値	10.8	10.8							
成果指標	成果指標	家庭系可燃ごみ減量								
	目標値	—	—	12,439	12,359	12,278	12,196	12,114	↓	
	実績値	13,591	13,474							
達成率		—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	(現状及び判定理由)	循環型社会形成のため、資源化の意識高揚及び推進が重要であり、今後も実施する必要がある。			目的評価	A		
		A:非常に高い	B:高い	C:低い	D:非常に低い			
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	(判定理由)	廃棄物全体の減少に伴う集団資源回収量の減少により、コストは減少している。			項目	②コスト面		
		減少	1	維持	増加	増加	維持	減少
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	(判定理由)	集団資源回収率はやや減少しているが、目標値は達成している。可燃ごみの収集量は目標値に達していないが、減量している。			③成果面	拡大	維持	減少
		拡大	1	維持	減少			
					コスト・成果ポジション			
					A			
					第1水準			

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→	I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→	II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→	III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→	IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→	V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

集団資源回収量がやや減少している。

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・継続 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 完了
活動の方針	循環型社会形成のため、引き続き集団資源回収の実施を推進し、資源化意識の高揚を図る。 次年度の実施方針 各種団体による集団資源回収の実施や、ボランティアによるリサイクル推進活動により現状を維持する。

一次評価 主管課	I
判断の理由	今後も引き続き集団資源回収の実施を呼びかけ地域コミュニティを支援し、資源化意識の高揚を図るため現状を維持する必要がある。

総合評価		
コスト	成果	評価区分
中	高	II
判断の理由等		
「I」の水準に向けた改善が必要		
本事業の実施により、ごみの減量化や資源化とともに、意識の高揚も図られている。今後も引き続き市民、集団資源回収団体への啓発を実施するなど、さらに資源化意識の高揚、資源化を図っていく必要がある。		